



2018年10月1日
第635号

1部10円(組合員は組合費を含む)
郵便振替0960-7-117274

Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

発行 大阪教育合同労働組合
Education Workers and Amalgamated Union Osaka(EWA)
発行人 大橋 裕子
連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

それでもやるのか!! 大阪市 学力テストの結果を教員の一時金に反映

大阪市の吉村市長が「学力テストの結果を教員の勤勉手当に反映」と記者発表し(教育合同 633号に掲載)、9月14日には大阪市総合教育会議が開かれました。報道では、出席者から反対意見はなく、学力テストのみならず大阪市の「学力経年調査」、大阪府の「チャレンジテスト」の結果も含めた制度設計を市教委に求めたとしています。この会議の傍聴者によると、出席者からは積極的に賛成する意見はなかったが明確な反対意見もなく、結果、市長提案を進める方向となったようです。

結果は目に見えている
現場で働く教職員からすれば引き起こされる教育破壊は火を見るよりも明らかです。すでに点数に一喜一憂するあまり、学力テストで高い点数を取るための事前練習に多くの時間が割かれ、本来、最も重要視されなければならない、子どもの学習状況を考慮しながら授業が進めることが困難な状況になっています。また、点数が高ければ良いとする方針であれば、同様の施策が進められた他国の例を見るまでもなく、あらゆる方法で「点数を高くする」方法が取られ

ることになるでしょう。
大災害で混乱の最中テスト実施
今年度の大阪府の「チャレンジテスト」は、大阪北部地震による延期、その後の台風21号の影響により同日実施ができなくなりました。「チャレンジテスト」は公立高校入試の内申に反映させるとしたにもかかわらず、生徒たちへの公平性が担保されていません。また、「チャレンジテスト」の英語長文出題はあろうことか、関西空港発の飛行機で新千歳空港に向かうという内容。その日の早朝には、

北海道で震度7の大地震が発生していたというのに。
生徒にも教員にも学力テストに偏重した教育施策を押し進めようとする大阪の教育。このままで良い訳がありません。組合は追及していきます。
「子どもたちに渡すな!あぶない教科書 大阪の会」の呼びかけで、12月22日にエルおおさかで「学力テストの教員評価・ボーナス反映に反対!12.22集会(仮称)」が予定されています。多くの団体・個人の実行委員会結集で盛り上げていきましょう。
酒井さとえ(書記長)

このままでは労働運動そのものがつぶされる!

連帯ユニオン 関生支部へ空前の組合弾圧

350人が大結集! 労働組合つぶしの大弾圧に抗議する9・22緊急集会



今、おおさかユニオンネット等を通じ共に闘って来た、全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部(以下、関生支部)に対し空前の組合弾圧が行われています!
滋賀県警、大阪府警、和歌山県警、奈良県警、京都府警による執拗な家宅捜査が行われ、現時点で、武健一執行委員長をはじめ20名もの組合員が不当逮捕されています。

ストライキが威力業務妨害?

生コン業界は大手ゼネコンとセメントメーカーの力が強く、中小企業の経営は厳しく、労働者も劣悪な条件で働いています。ゼネコンに買い叩かれないために、地域

ごとに中小企業がまとまり、協同組合という事業者団体を組織しています。関西地区では協同組合と関生支部が協力し、生コン価格の適正化や日々雇用労働者の正職員化、輸送運賃の引き上げ等を目指して来ましたが、その結果、生コン工場は利益が出るようになったものの、運転手の賃金は据え置かれたままです。大阪広域生コンクリート協同組合(以下、大阪広域協組)が、「輸送運賃を引き上げる」という2年越しの約束を守らなかったため、2017年12月、関生支部は輸送運賃引き上げと協同組合運営の民主化を求め、関西一円でストライキを決行。その後、大阪広域協組は排外主義者らと手を組み、「威力業務妨害だ」と関生支部に対して誹謗中傷・妨害行為を繰り返してきました。これまでの武委員長を含む4名の逮捕に加え、9月18日大阪府警は、「強要未遂および威力業務妨害」だとして16名もの関生支部組合員を不当逮捕したのです。

この弾圧の狙いは何か?

これらの凄まじい関生支部弾圧に抗議し、9月22日エルおおさかにて、「労働組合つぶしの弾圧に抗議する9・22緊急集会」が開

催されました。急遽開催が決まった集会にも関わらず、会場には約350名が大結集! 会場の外にも人が溢れていました。

大阪労働者弁護団の永嶋靖久弁護士からは、一連の大弾圧の狙いについて説明がありました。これは、関生支部が中小企業と協力し大企業の収奪と闘い、沖縄基地撤去、原発再稼働阻止、戦争法・共謀罪阻止を掲げ安倍政権と真正面から闘う労働組合だからこその大弾圧なのだとの説明がありました。

大橋執行委員長も、「この弾圧は、国家が憲法28条にケンカを売ってきたようなもの」「これまで闘いの現場には常に関生支部の姿があった。受けた支援は支援で返す。これが労働組合だ」と力強いアピールを行いました。

組合員の労働条件に関する要求が「強要」、ストライキが「威力業務妨害」で逮捕されるならば、労働組合は闘う手段を全て奪われてしまいます。これは関生支部だから起きた弾圧でもありません。教育合同にも起こるかもしれない、全ての労働者に向けられた弾圧です。「受けた支援は支援で返す」関生支部と共に立ち上がろう! 大橋裕子(執行委員長)

教育現場の労働者が 誰でも入れる みんなでつくる教育合同

「君が代」処分のその後 これが研修？質問にまともな回答なし！

今春の卒業式における「君が代」不起立に対して、5月18日、私の対する戒告処分が発出されました。5年前に次いで2回目だったので、今後同様の処分を受ければ免職の可能性があるという「警告書」付きでした。

質問時間の保障なし

形式的な「研修」

今回の処分に対する「再発防止研修」が7月10日に実施されました。前回の処分時の研修が、一方的に「服務規律」を説明するだけで、最後に「今後、入学式や卒業式等における国歌斉唱時の起立斉唱を含む上司の職務命令には従

います。」と書かれただけの「意向確認書」なる書類への署名をもとめるのもでした。そこで、今回は、教育委員会が考える、「国歌斉唱の起立斉唱」に対する職務命令の正当性について説明すること、疑問点について、質疑応答の時間を確保すること、宛先も使用目的も曖昧な「意向確認書」の署名捺印を求めないことの3点を、事前に要望書として提出しましたが、研修当日まで明確な返答はありませんでした。

質問書の提出と「回答」

研修当日、組合と市民団体の支援者とともに研修担当者

に強く要望し、「質問については事後に文書で提出すれば回答する」との返答を得ることができ、研修後3日間で、支援者の知恵も借りながら質問書をまとめました。研修担当者が「公務員は国民に対する忠誠心が求められる」と説明したことの根拠、「意向確認書」の使用目的、外国にルーツがある生徒に対しても「日本人としての自覚を養う」目的を当てはめるのは同化を迫ることになるのではないかなど、23項目にも及びました。質問書に対する回答書は、9月5日になってようやく返ってきましたが、内容に踏み込んだ回答はほとんどありませんでした。

コトの本質を捉えない危険性
憲法などで、公務員を「全体の奉仕者」と定めているのは、様々な背景をもつ多様な国民・住民を意識したものではありません。しかし、現在の府教委の対応は「悪法も法である」という法治主義のみを前面に出し、従わない者は「忠誠心」が無いものと決めつける、全体主義・同化主義に傾いていると言わざるを得ません。今後も、人事委員会への審査請求とともに、府教委への再質問などを行っていきたいと思います。

増田俊道（書記次長）

違ったままで一緒に生きよう！ 映画『愛と法』とレインボーフェスタ2018



イノリティ、養護が必要な子どもたち、無国籍の人、作品が罪に問われたアーティスト、そして「君が代」を立てて歌わなかったことを理由に処分を受けた辻谷組員。時に判決の内容に怒り、絶望しながらも、やはり「法」の可能性を信じる姿に、胸が熱くなるとともに、2人の日常の様子に心が温かくなります。ぜひともご覧下さい。今年もレインボーフェスタに参加！

また、10月6・7日には、レインボーフェスタ2018が、扇町公園で開催されます。今年も教育合同は、7日のパレードには組合として参加をします。「LGBTは生産性がない」「同性愛は趣味みたいなもの」など、政治家による差別発言に抗し、「違ったままで一緒に生きよう」と書かれた横断幕を持って、一緒に楽しく街を歩きましょう！ 田中浩昭(高校支部)

「君が代」不起立裁判の原告である辻谷博子組員が出演している映画『愛と法』が、9月22日からシネ・リーブル梅田で公開されています。

南森町で法律事務所を営むゲイの弁護士カップル、南和行弁護士と吉田昌史弁護士の日常を追ったドキュメンタリー。彼らが法を携え寄り添うのは、セクシュアルマ

当面の日程

- 10月5日(金) 18時半 組合事務所 第101回本部委員会
- 10月6日(土) 14時 新阿波座公園 戦争あかん！ロックアクション御堂筋サウンドデモ
- 10月6・7日(土・日) 11時~ 扇町公園 レインボーフェスタ2018
- パレード参加者は10月7日(日) 12時半に扇町公園に集合！
- 10月8日(月) 14時 エルおおさか南734号室 グループZAZA・連続講座 講演：朝日新聞・中村尚徳記者「反骨の記録」から考える憲法問題
- 10月20日(土) 13時 エルシアター とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和 2018関西のつどい

文化おちこち

(205)

アジア・ヨーロッパで考えたこと 【その5】

今年4月に訪問したインドのケララ州は、インド伝承医学のアーユルヴェーダの本場として知られているが、伝統舞踊のカタカリ・ダンスも有名である。そのときは残念ながら観れなかったが、踊り子は男性だけで、せりふはなく、手足の繊細な動きで感情を表現する舞踊だそうだ。

そんなことを思い出したのは、最近、地元の豊能町で、劇団・天然木のミュージカル公演にとりくんだからだ。劇団・天然木は、熊本県山都町を拠点に、家族7人で作・演出・作詞・作曲まで全部やっているファミリー劇団で、今回はしずくさん&りんかさんの若い姉妹二人の公演。「ばあちゃんのLOVE&PEACE」と「大矢野原に立つて」の二本のミュージカルでは、透明感のある歌声とユーモラスな演技で観客を魅了し、中でも、憲法前文を歌詞にした「憲法第九条」は

圧巻だった。

交流タイムでは、二人の飾り気のないトークが観客の心を開いていったのか、どんどん手を挙がる。中でも、ポストインしたチラシを見て参加したという88歳の男性は、予科練候補生として、先輩たちが特攻に出撃していったこと、だからこそ平和が大事、戦争してはいけないことを涙ながらに語った。

組合がとりくんだ8月「振って、振られて」公演でもそうだったが、改めて演劇や映画などが持つ力や可能性を感じさせてくれた。公演の打上げでは、落語「厩火事」をミュージカルにして演じてくれたしずくさん&りんかさん。今後の活躍に期待！

(寺本勉・高校支部)



『退職代行』なるものが話題になっている 辞めたいと言い出せない、辞めさせてもらえない労働者の代わりに退職

手続きを行う 代金は正規5万、非正規4万 上司と顔を合わせることなく気軽に退職が謳い文句 本来、労働者が持ち合わせている力が益々奪われていく